

事業所名	グループホーム 井原ラゴム		
日付	平成18年3月31日 特定非営利活動法人		
評価機関名	ライフサポート		
評価調査員	在宅介護経験15年		
評価調査員	老人保健施設相談員、介護支援専門員 経験6年、厚生労働省介護指導員		
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)		
評価項目の内容を見る			
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)			

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>利用者は全員女性。要介護度も1~5の人がバラついているが、利用者同士でお互いに助け合い、労わりあっている感じがする。職員は、利用者にとっては孫のような存在で、お互いに尊敬と尊敬の気持ちが混在していて、一人ひとりがゆったりと自由に過ごしている。小学校の先生だった人は、歌が好きで自分の歌集を持って童謡をいつも口ずさんでいる。絵本も持って読んでくれ、その本からどどん話題が広がっていく。昼食後、その人の歌声が広がってみんなアカペラで歌い出した。童謡は皆さんよく歌詞を覚えていて合唱が続く。一番の年長で、要介護5全面介助の必要な人は殆んど眼を閉じて言葉も出ない。傍らに職員が寄り添い、手拍子で肩に軽くリズムを与えて、耳で口ずさんであげていたら、その人の口が動き出した。その歌詞を思い出したらいい。やがて職員と一緒に歌いだした。低音の歌声がかすかに聞こえ出す。職員が歌うのを止めるとその人は一人で歌いだした。皆しばらくその歌声に聞き入った。正確な歌詞、心地良いメロディで眼をつぶって手拍子を取りながら歌い続けた。歌い終わると、全員の拍手喝采が起こった。</p> <p>どんなに重度で寝たきりに近いような人でも、周りの人の寄り添い、声かけ、気持ちの働きかけが、そのような人に心が通じ合え、その人が記憶していた事を呼び起こすことが出来るか、その実証を見せてもらった。素晴らしい利用者職員との心の交流の一例だった。その後、その人は眼を開き、笑顔で過ごせるようになったことも付け加えておきたい。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>家族への関わりや働きかけを今後創意工夫していくと、もっと良くなると思われた。開設から日が浅いこともあるが、今後地域の方々の拠り所となれるような機能を持つ事を期待する。</p>

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1			
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「その人の生活歴を知り、生きがいのある生活を支援する」「その人の能力に応じた生活を送り、自主性を導きます」が基本的なケアの目標。どこでも理念とか目標を文章にすると、このような文章になるが、このグループホームの特徴は利用者が自分自身で、あるいは皆と共同でこのような生活を築いて行こうという感じを受けた。そして職員がリードしたり、出しゃばらず、ゆったりとしている。</p> <p>まだ開設して9ヶ月余りで職員も若い人が多いので、まだ未熟なところはあろうが今後の成長に期待したい。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>「きのこ」発祥の地、きのこ診療所に隣接して新しく作られた。玄関を入ると1階はデイサービスとお泊りゾーンがあり、2階にグループホームの入り口を入るとリビングルームと厨房が中央にあり、そこから2方向に居室が広がっている。リビングでは2つの食卓とソファがあり、そこで利用者が過ごす事が多い。居室の入り口の戸の格子の組み方が全部異なり、それぞれの人の作品や目印が掛けたりあり部屋が分かりやすい。部屋には洗面トイレが設置してあり、居室も広くゆったりしている。和室と洋室がある。外には1ヶ所非常階段がある。農園もあり利用者は小松菜を取りに行っていた。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>利用者の人々は、個性に溢れお洒落な人が多い。髪形も服装も似合っていて装飾もしている。小学校の先生だった人が暑いといって薄手のカーディガンを脱いでしまい、ブラウスだけで過ごしていた。そのカーディガンをきちんと畳んで膝の上に置いていた。</p> <p>「さん、寒いからカーディガンを着てください」「風邪をひいたらいけないから着て下さい」と言っても着ようとしてくれない。そうしたら、職員から「さん、カーディガンよくお似合いですよ。着て見せてくださいませんか」と話しかけたら、カーディガンを広げて7つのボタンを教えて「これ着るの難しいのよ」と言いながら、カーディガンを着せてくれた。こんな言葉の選び方、さんへの尊敬を大切にされた会話の一例だった。このように色々なところできめ細かく関わっていた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>きのこの法人の傘下にあるが、他からの影響も少なく独自性を持って運営している様子を聞いた。何かほっとする感じを受けた。</p> <p>管理者以下職員は若い人が多く、何事もこれからという期待が持てる。きのこ診療所をはじめ、ケアハウスや薬局も近くにあり、きのこの風は吹いているが、地域的に普通の民家や地域に直接触れている。グループホームとして地域ぐるみで認知症の人をケアしていく拠り所になる拠点として発展するよう期待している。利用者も地域の人が多く馴染みもあるので、利用者自身が地域の人と親しみを持ってもらえるよう日々の生活の中で付き合いを深めていってもらい、地域の人が利用者の話し相手に訪問してもらえるともっと賑やかなホームになるだろうと思う。</p>		